



町長エッセイ



10月8日に小川和紙職人後継者育成事業の開講式を和紙体験学習センターで行いました。細川紙の手漉き技術がユネスコ無形文化遺産に登録されて2年、いよいよ町の和紙職人の後継者育成事業がスタートしました。

後継者募集の呼びかけに、各地から予想を超える数の応募が届きました。育成事業終了後に小川町内で工房を持つか、紙漉きにかかわることを重要な条件として選考を行い、6名が選ばれました。その中にはマイスターを目ざす高校生も含まれており、「和紙のやさしさが好きです。卒業後も続けたいので応募しました」と話してく

れました。遠くは川口市や鴻巣市からの研修生もいます。

いずれの方も、和紙との触れ合いや出会いが応募のきっかけとなっていて、その魅力を熱く語ってくれました。また、手漉き和紙の自然な美しさに魅力を感じる女性が多いことをあらためて実感しました。

現在、毎週土曜日、職人の方々の指導で小川町和紙体験学習センターを利用した研修が行われています。研修期間は3年間ですが、その成果が今から期待できる開講式でした。